

令和2年度 延岡市立名水小学校 学校評価書

《学校の教育目標》

たくましい心と体を持ち、創造性豊かで意欲的に考え実践する児童の育成

《学校経営ビジョン》

- (1) 目指す児童像を「自立」「貢献」とし、全教育活動の柱とする。
- (2) コンプライアンス精神を遵守し、全児童・全保護者に対して公平な教育活動を通じて、信頼される学校組織をめざす。
- (3) 延岡市及び名水地域の文化、慣習を尊重し、地域に根ざした教育の充実にと努める。
- (4) 指導技術を高め、児童及び保護者の期待に応える学校教育活動を展開する。
- (5) 教職員間の相互信頼・責任を基本に、個人とチームワークの強みを最大限に高め、働き方改革を進める。

4段階評価 4・・・大変よい 3・・・概ねよい 2・・・もう少し改善を要する 1・・・大いに改善を要する

区分	項目	内容	自己評価			学校関係者の意見
			総合	成果(○) 課題(●)	改善策(・)	
基盤	学校経営ビジョン実現	自立貢献の指導(主体性を引き出し、賞賛する)	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ○職員はよく意識して教育活動に当たっていた。 ○校長が集会のたびに話をすることで、児童にも「自立・貢献」が浸透してきた。 ●児童の意識付けを図るために、発達の段階に応じた日頃の教育活動を工夫したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内では、給食当番や清掃をがんばり、校外では、家の手伝いをがんばったり、公民館の掃除の加勢をしたりと、自立・貢献を意識した行動が見られるようになった。
知	学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①OUTPUT 重視の授業改善 (INPUT) ②データに基づく効果的指導の展開 ③徹底的な反復学習の充実 ④全職員による組織的指導の充実 (TT や個別指導) ⑤評価と指導の一体化 ⑥授業日数削減の中での学力保障 (板書等の工夫) 	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを取り入れた授業実践を通して、限られた授業時数で、学習内容を指導することができた。 ○教材研究の時間も十分確保できており、個に応じた指導につながっている。 ○職員が一丸となって指導に当たった。 ○多くの先生方に授業に入っていたきながら、児童の学力向上に努められていたのではないか。 ●タブレット等の使用のスキルアップを図り、計画的に授業で活用できるとよい。 ●テスト結果(ベネッセ)には、あまり成果が表れていない。 ●字を丁寧に書く、きちんと宿題を提出する、忘れ物をしないなど、基本的な学習習慣の育成は引き続き必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT活用の研修の充実 ・ベネッセ等のテスト形式や応用問題に取り組みせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭によって差はあるが、保護者が子どもの学習内容に関心をもつようになった。 ○地域の方々や保護者を招いての学習発表会は、児童の個人発表があったり、調べたことを発表したりしてよい内容であった。なわとびの発表も練習の成果が見られてよかった。 ○姫田さんの読み聞かせやお気に入りの本の紹介により、図書室や移動図書館の利用が増えている。

徳	豊かな心の育成	①体験活動重視の教育活動の工夫 ②幼保小中連携を通じた継続的指導 ③読書教育の充実（図書室や移動図書館の活用） ④情操環境の充実（大きな歌声と美しい音楽） ⑤地域人材の活用（キャリア教育改善） ⑥人権教育の充実 ⑦いじめの未然防止、解決力の支援 ⑧時と場に応じた行動基本の徹底	3.2	○ハーツフル委員会や日常の会話を通して、児童の抱える課題の共有ができており、日常の指導に生かせることができています。 ○外部からの講師による、専門的な授業が実施できた。 ○おすすめの本を給食時に発表させて、啓発活動が行えた。 ○週2回の図書室利用、月2回の移動図書館等で、本にふれあう機会をもたせたり、本の紹介を行ったりして、人前で意見を述べる機会を作ることができた。 ●人材活用や校外学習を積極的に取り入れ、TPOに応じた行動を具体的に指導し、しっかり見付けさせる必要がある。 ●自分たちで計画し、実行し、運営する力をつけていく必要がある。	・外部人材の積極的・計画的な活用 ・キャリア教育の見直し（キャリアパスポートの活用） ・委員会活動の充実	○本校児童は、児童同士でも挨拶ができる。伝統として残したい。 ○上級生が下級生に優しくしており、よい雰囲気ができている。 ○学校で作業をしている職員や地域で清掃活動をしている方々に自然と「ありがとうございます。」などの感謝の言葉をかける姿が見られ、とても微笑ましい。
体	体力の向上 健康な心と体の育成	①体育科での基礎体力作り（運動量の確保） ②体育的行事の工夫 ③保健教育の充実 ④食育指導の充実	3.4	○なわとび運動に意欲的取り組み、体力の向上が図られた。 ○体育の時間や休み時間に運動量の確保が十分にできている。 ○体育時、体を動かすことに十分な活動を取り入れられた。(運動量の確保) ○今年度は、むし歯治療全員終了。 ●食育は、給食指導や教科指導などでさらに深めたい。 ●基本的な生活習慣、特に朝ご飯と味噌汁の定着が厳しい。 ●ゲーム等、メディアの影響をかなり受けている。	・家庭と連携した食育の推進 ・基本的生活習慣を見直す振り返りシート等の活用 ・家庭と連携した指導が必要。	○学校での避難訓練に加えて、地域での防災意識を高めるために、避難場所を複数確認し、臨機応変に避難できるようになって欲しい。 ○家庭でのゲーム使用の時間が上手く管理できていない。ゲーム以外の楽しい時間の過ごし方を考えなくてはいけない。 ○学校管理下では、子どもの安全は学校が責任をもつが、休日等地域で過ごしているときには、安全面は地域で管理できるようにしたい。

<p>学 校 力</p>	<p>職員の指導力向上 働き方改革の推進 地域との連携</p>	<p>教員の指導力を研磨 ①OJTの充実 ②「変わる」ことにつながる校外研修への参加 ③ICTの効果的な活用 ④メンタルヘルスの推進とコンプライアンスの徹底 働き方改革の推進 ①職員発（スクラップ and ビルド）起案の重視 ②ペーパーレスの推進 ③会議・研修の見直し 地域との連携（開かれた教育課程） ①名水小地域ふれあいネットワーク会議との連携 ②地域との情報共有</p>	<p>3.4</p>	<p>○ペーパーレスの推進を図り、会議で使用する書類は、従来の3分の1程度に縮減できている。 ○会議や研修を精選し、校時程を工夫することで、教材研究の時間を十分に確保することができた。 ○会議・研修が整理されており、時間にゆとりが生まれている。 ○今年度は、今までの学校との在り方の違いが多くある一年だった。学校の可能性を感じた。 ○ペーパーレス等いろいろなコストを削減できた。 ●ネットワーク会議をさらに進化・整理させて、コミュニティスクールを具体的に進めたい。 ●コロナ禍で、地域と関わる機会が少なかった。</p>	<p>・ネットワーク会議の組織づくりと運営内容の明確化 ・コロナ禍でもできる外部人材の活用、ホームページ等の充実</p>	<p>○ 職員が意欲的に楽しく業務に取り組んでおり、児童も学校が楽しくなるのではないかと。 ○ 土曜日の参観を増やして欲しいが、弁当の準備が必要になり、振替休業日を設定することにより、家の中が子どもだけになってしまう状況を見ると、今年度のように年間2回程度でよいのでは。</p>
----------------------	---	--	------------	---	---	--